



"To acknowledge the duty that accompanies every right"
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE Y'S MEN'S CLUB OF OSAKA -

c/o YMCA INTERNATIONAL PROGRAM CENTER
 Dojima Grand Bldg., 1-5-17
 Dojima Kita-ku Osaka 530 JAPAN
 PHONE (06)344-1717

CENTENNIAL

No. V. 1984. Ⅱ-5

THEME (1984~'85)

- I. P. 「今こそ行動のとき」
- R. D. 「限りなき熱情を奉仕に」
- D. G. 「奉仕と誠をもって前進しよう」
- P. 「創ろう新しい伝統を」

◆「YMCA-ASF」強調月間〈日本区〉

11月例会プログラム

とき 11月21日(水) 18:30~20:30

ところ 大阪YMCA会館 9階集会室

- | | | |
|---------------------|------|-----------------|
| | 司会 | 坂口芳良君 |
| 1. 開 会 | | 中村会長 |
| 2. ワイズ ソング | | 一 同 |
| 3. 聖 句 朗 読 | | 山中秀男君 |
| 4. ゲスト紹介 | | 中村会長 |
| 5. 入 会 式 | | 中村会長 |
| | 新入会員 | 多田幸子姉 |
| 6. 食 前 感 謝「日々の糧」晚さん | | 一 同 |
| 7. 役員会報告 | | 中村会長 |
| 8. ス ピ ー チ | | 上月英子姉 |
| | | 「知らないと損をする税金の話」 |
| 9. 誕生日のお祝い | | 中村会長 |
| 10. ニコニコアワー | | |
| 11. 委員長報告・YMCAニュース | | |
| 12. 閉 会 | | 中村会長 |
- ▼ 例会当番〔岡本、上月、坂口、田中、長安、山中〕

◆ 第2例会

とき 11月28日(水) 18:30~20:30

ところ YMCA国際・社会奉仕センター

◆ 誕生日おめでとう

- | | |
|-----------|-------------|
| 山村幸男君 | 1934年11月6日 |
| 山中ちあきメネット | 11月8日 |
| 桂 知良君 | 1934年11月11日 |
| 横山和子メネット | 11月13日 |
| 坂口久代メネット | 11月15日 |
| 山中秀男君 | 1933年11月28日 |

1984~1985 役員

- | | | | |
|-------|------|-----|------|
| 会 長 | 中村隆幸 | 書 記 | 堀 利満 |
| 副 会 長 | 山田孝彦 | " | 藤井保男 |
| " | 長安敏夫 | 会 記 | 柴田 健 |
| 直前会長 | 山中秀男 | " | 浦野啓一 |
| 担当主事 | 田中稜二 | | |

"Listen! A farmer went out to sow his seed. As he was scattering the seed, some fell along the path, and the birds came and ate it up. Some fell on rocky places, where it did not have much soil. It sprang up quickly, because the soil was shallow.

But when the sun came up, the plants were scorched, and they withered because they had no root. Other seed fell among thorns, which grew up and choked the plants, so that they did not bear grain.

Still ather seed fell on good soil. It come up, grew and produced a crop, multiplying thirty, sixty, or even a hundred times."

よく聞きなさい。種をまく人が種をまこうと出ていったまいてる間に、ある種は道端に落ち、鳥が来て食べてしまった。ほかの種は、石だらけで土の少ない所に落ちた。そこは土が浅いのですぐ芽を出したが、日が昇ると焼けて、根付かないために枯れてしまった。ほかの種は茨の中に落ちた。すると茨が伸びて押しつぶさったので、実を結ばなかった。また、ほかの種は良い土地に落ち、芽生え、成長して実を結び、あるものは三十倍、あるものは六十倍、あるものは百倍にもなった。

(マルコスによる福音 4章3節~8節)

センテニアルワイズクリスマス祝会

とき 12月15日(出) PM 5:30~8:30

ところ YMCA会館 (土佐堀)

かいひ メ ン 4,000円

メネット 4,000円

コメット 1,000円

こうかんプレゼント 500円程度



サンタさんもやってくる恒例のファミリー祝会
 メネット・コメット みんなで集りましょう。

▼ 第1例会の記録

寒菊薫る秋の例会に相応しく、楽しい企画が盛り込まれた当月は、元大阪サウス、東京武蔵野クラブに所属されていた山下広蔵氏、自称「南茶亭気楽」師匠をお迎えし、とても愉快でユーモア溢れる講話を頂き楽しいひとときを過ごすことができた。

日頃、わがクラブの活動を盛り上げて頂いている駄洒落マン、杉本君の大師匠様とあって、なかなか上手な洒落ぶりが披露され、参会者一同の顔も終始ゆるみ放しであった。

世の中、人生、何かと厳しくせちがらい中で、笑って愉快地楽しくという気配りがいかに大事なことであるかを、とくと説かれ、なるほどとうなずく意義ある内容であった。



ユーモアたっぷりて話される山下広蔵氏

※ チャーター2周年記念行事として、この1年間の活動をふりかえり、特に活躍の顕著であった、黒田、山田、松添、森君等が中村会長より表彰された。



表彰を受ける黒田君

※ 着物の着つけ先生、こと長安メネットの艶姿センチアル娘の玉回して始められたドアブライズの番号発表を、途中で穴戸中西部長の玉回し応援もあり、発表のたびに大歓声があがった。高尚、高価な景品等、沢山あり、受与時の当選者の笑顔が印象的であり、総売上高も34,000円はまずまずの成果といえよう。



玉を回される穴戸中西部長

※ 他クラブからは穴戸中西部長(奈良)、柳原君(大阪サウス)が出席され、穴戸中西部からもお話を頂いた。

※ 西出會計担当の転回に伴い、後任に浦野啓一君を推せんした結果、全員賛成で承認された。

今月の聖句について

黒田 厳之

キリストは、聞く人びとが判りやすいように、よくたとえ話で説教されたが、この聖句もその一つです。

意味はお読みになればすぐわかる内容ですが、「種」はキリストの教えを意味しています。「地面」は、それを聞く人びとのところを指しています。如何に素晴らしい教えでも、それを聞く人の心が、頑なであれば、その人の心に何の影響も与えないでしょうが、謙虚な、素直な心でそれを聞くと、その影響は大きい、その人の人格を変えてしまうほどの偉大な力をもっているのがキリストの言葉です。この聖句のあとに「聞く耳のある者は聞きなさい」とキリスト自身がつけ加えているのも意味深いことです。

▼ 第2例会の記録

- 11月例会プログラムの決定
当月は多田幸子姉の入会式を行う。また上月英子姉のスピーチを拝聴する。
- 新年合同例会に関する打合せ
第2部について、担当、指導等の打合せを行った。
- 11月度 他クラブ訪問者の決定
特に新年合同例会のPRを兼ねて、全員で手分けして訪問することに決定した。
- BF事業の体制強化について
人員を補強し、より積極的に推進していくことを申し合わせた。
- クリスマス祝会について
会場、催物、会費等について検討し決定した。

WHAT IS THE "ASF" ?

ASFとは?

PAUL WILLIAM ALEXANDER SCHOLARSHIP FUND のことで、ALEX FUNDとも呼ばれている。かつてはPWASFと略されていたが、数年前からさらにASFと略され、日本区ではアスフの呼称で親しまれている。

将来YMCAの主事を志して学んでいる青年を励ますために、奨学金を支給して援助育成する事業で、これこそ最もワイズらしいサービス事業であると云えよう。

ASFの起源は?

1950年、メキシコ・シティーの国際大会で、ワイズメンズ・クラブの創始者であり、名誉国際会長であったP. W. アレキサンダー判事の功績を称えるため、彼に肖像画を贈ることが決議されたが、彼はその金を元手にして、より多くの金を集め、もっと価値のある事業に活用すべきであると示唆した。そこで1954年肖像画の代りに写真を贈り、残金をスプリング・フィールドと、ジョージ・ウィリアムス両カレッジで、YMCA主事を目指して勉強中の学生たちに奨学金として支給することを決め、翌1955年からこの事業がスタートした。

日本区では?

1963年に当事業を採り上げることを決議し、翌年奨学生第1号が誕生、以来今日に及んでおり、この間支援を受けた奨学生諸君は日本各地のYMCAで現在主事として活躍している。なお日本区ASF事業資金は、メンバーの定額拠出金(現行1,000円/年)と、強化月間での各クラブの自主的特別寄付によって賄われている。

最近の状況は?

近年奨学生候補者推薦数や、特別寄付実行クラブが増加傾向にあることは、当事業に対するクラブの認識と協力が深まって来た証拠でまことに喜ばしい。しかし昨今YMCA主事志望者が急増し、奨学生が必ずしも全員主事になれるとは云い切れない状況となって来ているので数年前からは、この面での支援のみならず現職の主事の研究費などの支援もはじめている(香港YMCA主事養成所への援助や、日本YMCA同盟研究所・研究生の海外研修費の一部負担など)

現在アメリカエリアで実施されているように日本区でも海外(例えばアジア、アフリカエリア)からの来日主事研修生に対する奨学金支援についてもこれを体系的に検討すべき時期に来ていると思われる。(杉本記)

アフリカ映画は如何

———中西部TOF資金援助のために———

12月1日(日)・2日間の2日間、大阪市中央公会堂で、国際交流基金アフリカ映画祭があります。映画はアフリカのチュニジア、エジプト、エチオピア、セネガル等の国々を題材にした五本のセミドキュメンタリーものです。必ずしも難民問題を扱ったものではありませんが、私達のアフリカ理解に役立つものです。10月22日付の朝日新聞朝刊の「天声人語」が、この映画祭にふれ、私達が「いかにアフリカの大地に生きる人びとについて、無知であったかを思い知らされながら……」と云っています。

キップは国際奉仕センターで一枚¥600-で入手可能です。市販は¥800-、当日売は¥1000-です。是非¥800-以上で販売していただき、差額は中西部のTOF資金にしたいと考えます。例えば、12月2日 日曜日、朝10:30から三本立てにて、夕方6:00まで楽しめます。是非御協力下さい。チラシは、次の例会または、YMCA国際奉仕センターにあります。

ハワイのワイズ夫妻来日

谷川 寛

ハワイ区のウインワード・クラブのワイズメン、C・ツカヤマ夫妻が来京しました。ハワイの長老派教会のグループと中国訪問の帰路立寄ったもので、ゆっくり大阪のワイズの例会に出席出来ず、残念がっていました。ツカヤマ御夫妻は、ハワイで第二回のパンフィック・コンボケイションが行なわれた際、日本のワイズメンと子弟がお世話になりました。来年のハワイでのアメリカエリア大会に何名ぐらいの参加があるか、たずねられ、私達のブラザー以外にもホノルルにクラブがあることを忘れず、立寄ってほしいと云っていました。私達夫妻が、日曜日半日、京都をお供しました。御主人のC・ツカヤマは、ゴルフのハンディがシングルです。何時でもゴルフ場に案内するとのことです。

中西部C.S事業委員会報告

藤井 保男

10月20日(日)、YMCA国際・社会奉仕センターに中西部各クラブのC.S委員が集まりました。本年度C.S事業方針等の討議があり、タイムオブファスト(毎年2月の断食例会)は昨年迄、発展途上国のYMCAリーダー養成の為に献げられましたが、今年からは、ガーナ、パナマ、バングラディッシュ等の思えない子供達の為に献げられます。

各クラブのC.S事業が紹介され、YMCA難民事業の為に土佐堀Y'Sのディナーショー、奈良Y'Sの障害者へのサービス、高槻の地域活動への参加等が話題となりました。

最後に国際交流基金アフリカ映画祭の協力を確認しました。大阪YMCAが共催するこの映画祭は12月1日(日)、2日(日)大阪中央公会堂で行われます。当日券1,000円、前売券800円 販売に御協力下さい。



33年ぶりのミネアポリス——セントポールと男の涙

鈴木謙介

去る7月の国際大会のあとミネソタ州のこの地を33年ぶりに訪れた。ミシシッピ河を挟んで両側に位置する両市は双児市(TWINCITLES)と呼ばれる。セントポールの方に州政府があるが、まちとしてはミネアポリスの方が大きい。むかしは農畜産物の中心市場だったが、今は各種化学工業や情報産業が盛ん。1952年冬、雪深いこの地に、百貨店、YMCA、ワイズメンズクラブをたづねてまわった。DAYTON百貨店は巨大化し、数十の店舗を中西部に持つに至っている。YMCAは両都々心部に古い建物を残し、十幾つの独立、半独立のファミリーYMCAをふやしている。さて、ワイズメンの方は数においては往時に比べて衰退は否定できない。然し、近頃復興の兆しが見え初めている。老壮年代から青壮年代へのスムーズな交替が行われたところは活力を得て発展し始めている様である。この外メネットがメン化していることも一つの傾向である。この双児市では国際会長が3人、この区では4人出していることが一つの歴史を示している。シャーマン、ウェスタバーグ、カミングス、ガンケルマンの四君である。四人共現役で昔の日に戻すため大いに働いているのには感心。昨日来たガンケルマンの手紙によるとこの区(ノースセントラル)は1988年、国際大会招致を申込んだとのことである。この地は1960年の国際大会(当時大阪クラブの木下モモタロー君、東京の小滝君ら四名が出ている)をホストした。この地区は他の大都市に比べると堅実な、信仰深い、そして開拓精神のある人々なので、そしてYMCAそのものも歴史が古く、その若返りも進みつつあるので、ワイズメンの復興の一番期待できる地区であると観察してきた。こゝで私は感激に泣いて涙を出したことを附記しておきたい。ミネアポリスのノースイースト(N.E.)ワイズメンズクラブを私は1952年クリスマスのとき訪問した。当時このクラブは大阪クラブのブラザークラブだったからである。その時私は大阪クラブ前会長だった。N.E.クラブの会長はカーティス・ジョンソン君とって建築士でどちらも40才位だった。クリスマス例会に招かれ、大阪からの贈物をプレゼントしたり、大雪の中を彼の家を訪問して小さい子供らの写真をとったり、遊戯をしたりした。たった1日だけの交友であったが、以来クリスマス毎の挨拶の交換、子供達、そして年月が経つにつれて孫の写真などを送ったり、もらったりした交友が長くつづいた。一度ミネアポリスに来たら我家も増築したから泊まってくれとって来たので遂に彼の家をたづねることとした。当日はもとのワイズメンの夫妻10家族をパーティに招いてくれたりして心くばりにつとめてくれた。又近くにいる息子夫婦とその子、そして妻ローレーンの父親さんと一緒に朝食を近くのヒルトンホテルで共にしたり、各所の案内を気持よくやってくれた。

彼等の家はユリス街の大木の一杯ある古い中産階級の住宅地であって、むかし私が訪れた時の姿をそのまま残している。33年もの間、顔をあわせたことも無い、たゞワイズンの友というだけの関係といえ、たしかに決して厚い交友とはいえぬかも知れないが、ウェスタバーグP.L.P.(この人はミネアポリスの少年裁判所の判事)がカーティスの家につれていってくれたとき、心がときめいてお互いにどんな顔になるだろうかと不安だった。長身白皙の、気持の純粋な人の姿が妻のローレーンの笑顔と共に迎えてくれた。こゝでのパーティの夜はスライドや8ミリ、そしてロスアンゼルス・オリンピックのビデオを写してくれた。



ミネアポリス ミュージックホール公園を
カーティス・ジョンソン夫妻と共に 鈴木夫妻

ローレーンの手料理も決して派手ではないが心のこもった食物だった。泊めてくれた部屋は子供らの使った部屋で質素なものだが清潔だった。一晩は遠い湖のほとりの他の元ワイズメンの家に招かれワイルド米(インディアンが食べていた黒い野生のライス)を試みたり、帰りには彼の車の運転が眠りをさそわない様にとみんなで大声で歌を唄ったりした。さてたった2泊3日の交友でしたが、ほんとに良い人との間には一生忘れ難い関係を作り出します。いよいよ別れに際しカーティス君は遂に泣声を出し涙を流し、又この次にねーと言った。Good-Byeとはいわぬことを暗目に諒解。自分もそれに同調、互いに相抱いて涙声というものを出した。最近年出した涙の中で悲しく、うれしい涙だった。



10月例会出席者 (在籍会員 34名)				
	第1例会	第2例会	Make up	累 計
メ ン	21名	15名	2名	23名
出席率	61.76%			67.65%
メネット	5名			
コメット	1名			
ゲ ス ト	5名	1名		
ヴィジター	2名			
計	34名	16名	2名	

- ゲ ス ト 山下広蔵氏(ライオン商事副社長、元大阪サウス、東京武蔵野クラブ・ワイズ)
福永嘉彦君(山田君)、中繁芳久君(西出君)
多田幸子姉(森君)、大槻房子姉(森君)
- ヴィジター 穴戸良美 中西部長(奈良クラブ)
柳原一男君(大阪堺クラブ)
- メネット 黒田、鈴木、中村、長安、山中、各メネット
- コメット 中村ケイちゃん

◆ BFポイント

現金ポイント 86,000円

◆ NEWS IN BRIEF

谷川 寛 君 — 10月27・28日の二日間、東山荘で開かれる日本YMCA大会に出席します。

1985年度 YMCA カレンダー 発刊ご案内

様 式 昨年と同じ A2版
 価 格 1部 800円 (昨年度と同じ)
 納 品 11月15日発送予定
 申込先 YMC A六甲研修センター
 総務カレンダー係
 TEL 078 (891) 0050

▼アフリカ映画をみよう

YMCAでは昨年、アジア映画祭を開き好評をえました。今年にはアフリカ映画祭(チュニジア、エジプト、エチオピア、セネガルなどの映画)を12月1日・2日に大阪市中央公会堂で開きます。アフリカへの関心が高まっている今日、既成のアフリカ観を打破するチャンスとしては是非ご観賞下さい。入場料各日1,000円です。

▼市民講座「アジア農村のダイナミズム」

昨年の開発途上国援助についての市民講座の第2弾として、11月2日から5回にわたって、途上国理解の基本である標記の講座が奉仕センターで開かれます。

▼世界の国、生活と文化シリーズをご存知ですか

国際文化センター(ワイズの第一例会の場所)では毎月国際理解を深めるための一助として上記のシリーズを開き、毎回多数の参加者がありますが、11月はソビエト連邦(11月9日)を採り上げます。一度のぞいてみられては如何ですか。

▼クリスマス献金をお願い

例年12月に行っておりますクリスマス献金を今年もお願いいたしたく存じます。ご多用の所恐れ入りますが、各種奉仕活動のため是非ご助力をお願いいたします。

姫路ワイズメンズクラブ設立35周年式典ご案内

と き 1984年12月16日(日)
 記念講演会 PM 2:00 ~ 3:30
 講師: 遠藤周作氏
 演題: 「自分づくり 他人づくり」
 記念式典 PM 4:00 ~ 6:00
 と ころ 姫路市文化センター

